

○田村八重子¹⁾、佐竹真希子¹⁾、深澤昌子¹⁾、遠藤杏奈¹⁾、菅生尚子¹⁾、
八鍬佳奈江¹⁾、佐原彩¹⁾、千田亜沙美¹⁾、岩薫子¹⁾、木村富貴子¹⁾、
阿部香代子¹⁾、船山由美²⁾、植田信策³⁾

1)石巻赤十字病院検査部 2)石巻市立病院検査部 3)石巻赤十字病院呼吸器外科

【はじめに】過去の災害から、避難所生活における深部下肢静脈血栓（以下 DVT）の発生が問題視されてきた。これを受け東日本大震災後、石巻赤十字病院 DVT 検診チームが発足した。DVT 検診チームにおける臨床検査技師の役割を活動の経過と DVT 陽性率と共に報告する。

【活動の経過】震災後の初回検診（平成 23 年 3 月）から同年 8 月まで避難所を回診。避難所から仮設住宅への状況変化に合わせ検診場所を仮設住宅集会所や公共施設へと移行。発足当初は医師と臨床検査技師のみであったが、他職種の協力により現在では 7 職種と拡大。活動の中で、石巻市役所・健康運動指導士・宮城県理学療法士会・宮城県作業療法士会と協働し『石巻ゆいっこプロジェクト』が発足。このプロジェクトは DVT 検出と共に運動指導を同時に行う事で二次健康被害予防を目標としている。

【必要物品】ポータブル超音波装置 (MyLabFive、Viamo)・採血用具一式・携帯型測定器 (Cobas h 232)・弾性ストッキング・血圧計等

【検診方法】問診後、ポータブル超音波装置を使用し下肢静脈エコー検査を施行。検査部位は両下肢の膝窩静脈やヒラメ静脈を主体とし、静脈に内部エコーを認め、圧迫法により静脈内腔不変または残存するものを陽性と判断。陽性者に採血を行い携帯型測定

機器による D-ダイマー測定値 1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ 以上の場合、かかりつけ医又は石巻赤十字病院へ紹介し精査とした。また、血管拡張 (ヒラメ静脈径 $>9\text{mm}$)、静脈瘤など有所見者には、弾性ストッキングの配布や体操指導を実施。

【活動実績と DVT 陽性率】活動期間：平成 23 年 3 月から継続中 (集計は開始から平成 26 年まで)。検診場所：避難所 (のべ 37 カ所)、仮設住宅 (のべ 46 カ所)、公共施設 (のべ 19 カ所)。DVT 陽性率：避難所 26.7%、仮設住宅 9.6%、公共施設 9.0%

【考察】DVT 検診の結果、陽性率は非被災地と比較し高率である。このことより、災害発生後の DVT 検診の有用性と活動継続の必要性が推測された。DVT スクリーニング検査には超音波検査が適しており、臨床検査技師の働きが必要となる。

【まとめ】臨床検査技師は災害時医療で、救護班主事の役割を担う。今回の DVT 検診チームでの活動により、災害時医療における臨床検査技師の新たな役割を開拓できた。また、活動を継続していく中で他職種・外部機関との新たな関わりが生まれ、更なる活動範囲拡大が示唆された。

【今後】現在、宮城県臨床検査技師会からボランティアで協力を頂いているが、継続していくために、人材確保が必要である。連絡先 0225-21-7220 (内線 1190 超音波室)